

平成30年12月12日

平成30年度 冬季企画展 プレスリリース

(公財) 日本習字教育財団 観峰館

1、展覧会名

冬季企画展「平山郁夫—引き寄せられた中国書画—」展

2、開催趣旨

日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫（1930～2009）は、1968（昭和43）年より以後40年の間に中国・シルクロードを旅し多くの名作を遺すとともに、後半生を、地球上の貴重な文化遺産・文化財の保護修復活動に捧げました。1979（昭和54）年9月、平山は念願であった敦煌莫高窟を初めて訪れ、これ以後、常書鴻をはじめ多くの中国書画家と交流し、作品の贈答を受けました。これらの書画作品は、平山個人や夫妻のために描かれ贈られたものばかりで、すべて本展で初公開となるものです。また、中国における平山肉筆のスケッチや美知子夫人の日記から、平山の中国・敦煌における足跡をたどるとともに、平山が生涯のテーマとして描き続けたシルクロード作品の中から、中国原風景の本画・素描・大下図を併せて展示します。

本展は、これまで詳細にされていなかった平山郁夫の中国・シルクロードにおける歩みを、平山郁夫シルクロード美術館の協力のもと、改めて整理し直す試みです。本年は、平山没後10年の節目であると共に、平山が敦煌を初訪問してからちょうど40年の節目でもあります。平山の元に引き寄せられた中国書画作品を通じて、その人柄を偲んでいただくとともに、新たな“平山郁夫ワールド”をお楽しみください。

3、主催

・公益財団法人日本習字教育財団 観峰館（館長 石原 渉）

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町136

TEL 0748-48-4141 FAX 0748-48-5475

4、後援（予定）

滋賀県教育委員会、東近江市、東近江市教育委員会、京都新聞、中日新聞社、読売新聞大津支局、毎日新聞大津支局、NHK大津放送局

5、協力

平山郁夫シルクロード美術館

6、会場

新館特別展示室

平成30年度 企画展 概要

7、会期

平成31年2月1日（金）～3月21日（木祝） 開館日数47日
前期；2月1日～2月24日 後期；2月25日～3月21日
休館日；2月12日（火）、3月11日（月）

8、入館料 （常設展示共通）

一般 500円 高校生・学生 300円 中学生以下 無料

9、関連イベント

- ・ギャラリートーク&ミニコンサート

3月3日（日） 13時30分～15時

キーボード弾き語りと展示作品の解説 演奏者；よしこ（上岸芳子）

ナビゲーター；大塚裕一（平山郁夫シルクロード美術館）

寺前公基（当館学芸員、展覧会担当）

参加費：500円（館内見学可）

- ・土曜講座

2月9日「平山郁夫の足跡—中国における交流①」

3月9日「平山郁夫の足跡—中国における交流②」

講師；当館学芸員

参加費：500円（館内見学可） 定員各20名

10、主な出品作品

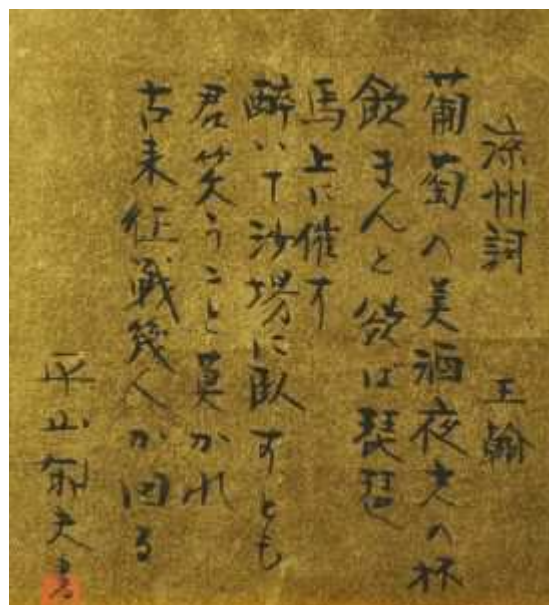
1～6・・・平山郁夫シルクロード美術館寄託

7・・・平山郁夫シルクロード美術館所蔵

1、平山郁夫「涼州詞」 初公開

涼州とは、敦煌のある甘粛省の古称である。平山氏は、1979年9月に初めて敦煌を訪問し、以後多くの敦煌の風景、石窟壁画、石仏群をスケッチした。

詩文にある「夜光の杯」とは、西安から続くシルクロードの中継地である酒泉で作られた玉製の杯で、酒を満たし灯りに透かすと杯中の酒の色をはっきりと見ることができる。平山氏が初めて敦煌を訪れた際は、酒泉まで車で移動し、そこから車で敦煌へ向かったという。



2、吳作人「絲綢之路」(1977年4月) **初公開**

吳作人(1908~1997)江蘇省蘇州出身。1946年、徐悲鴻に招かれて国立北平芸術専科学校油画系教授となり、1949年、中央美術学院の成立とともに油画系主任教授、1958年、同学院院長に就いた。平山氏は、1977年4月に中国を訪れ、同14日~21日には成都・杜甫草堂や拉薩市の風景をスケッチしている。本作品は、同30日に贈られたもの。



3、常書鴻「臨摸敦煌莫高窟第三二一窟唐人画飛天」(1979年9月) **初公開**

常書鴻(1904~1999)浙江省杭県の出身。敦煌莫高窟の保護と研究に尽力、敦煌文物研究所長として活躍した。日本国内でも個展を多く開催している。妻は、同じく画家の李承仙。

本作は、平山夫妻の敦煌石窟巡礼を記念して、1979年9月21日、夫妻の眼前で描かれ贈られたもの。莫高窟第三二一窟にある唐人が描く飛天を模写したもの。

平山氏と常書鴻氏との出会いは、1958年頃の東京芸術大学が初めてで、この時、約20年振りの再会を果たした。



4、張兆鵬「平山郁夫肖像」(1979年9月)

初公開

1979年9月27日、平山夫妻は張兆鵬(生卒年不詳)が平山氏の肖像を描いたということを聞き、張兆鵬の自宅を訪ねている。日記に「上手いものだ。平山顔負けといった処。」と感想を記している。

5、李平凡・陸鴻年合作「熊猫（パンダ）」（1979 年秋） **初公開**



李平凡（1922～？）は、天津市津南区出身。版画家として著名であるが、画家としても活躍。1979 年 9 月、平山郁夫夫妻の訪中の際に同行し、落ちていた石に絵を書き、それを夫人に贈るなど微笑ましいエピソードがある。

陸鴻年（1919～1989）は、江蘇省太倉出身。黄賓虹に師事し、人物画・美人画を得意とした。本作のような竹を画題とする絵も良く描き、同年同月には、別の竹を画題とする作品を、平山夫妻に贈っている。

6、黄胄「花猫図」（1984 年） **初公開**

黄胄（1925～1997）は、河北省出身。新疆ウイグル自治区の遊牧民の生活を描くことで知られ、平山氏とは、1984 年 9 月頃、北京にて呉作人や啓功等と共に交流している。



7、平山郁夫 北京大運河 十三層の塔 遼時代（2005 年）



北京市内に流れるこの大運河は、京杭大運河であり、隋・煬帝の大業 6 年（610）に完成し、その長さは二五〇〇 km にも及ぶ。中央奥の十三層の塔は、天寧寺にある八角十三層の塔である。

平山氏は、故宮（紫禁城）を中心に北京の風景を多く描いており、後に故宮の雄大さに圧倒されたと語っている。印象深い北京の風景の一つとして、晩年に描かれた作品である。

平成 30 年度 企画展 概要

1 1、上記以外の出品作品点数

- ・平山郁夫シルクロード美術館寄託品
 - 中国書画 3 2 点 (初公開) 拓本 (屏風) 1 点
 - 平山美知子氏日記 2 点
- ・平山郁夫シルクロード美術館所蔵品
 - 平山郁夫肉筆作品
 - スケッチブック 1 2 点 素 描 1 5 点
 - 大下図 2 点 本 画 1 点
 - その他
 - 中国石仏 3 点

1 2、担当者連絡先

公益財団法人日本習字教育財団 観峰館

学芸員 寺前公基 (てらまえ きみもと)

〒529-1421 滋賀県東近江市五個荘竜田町 136 TEL0748-48-4141 FAX0748-48-5475

k-teramae@nihon-shuji.or.jp

以 上